# 27［評論］『〈心〉はからだの外にある』

　本来、障害＝個性論は、①障害を個性と見なすことで健常者と障害をもった人の連続性を強調し、ノーマライゼーションを後押ししようとする考えに立っている。『障害者白書』の「［障害者と健常者の］「共生」の考えを更に一歩進めたのが、障害者自身や障害者に理解の深い人達の間で広まってきている「障害は個性」という障害者観である」という文章には、②この意図が表れている。この意図に関して反対すべきものは、もちろんない。

　しかし問題は、なぜ、ノーマライゼーションを後押しするために、障害を個性と見なす必要があったかということである。それは「個性」が社会的に価値ａフヨされた概念だからではないだろうか。つまり、一般の社会のなかで障害をもった人の平等な参加をｂウナガすためには、それまで負とされてきた障害を肯定的に評価する必要があると考えられたのではないだろうか。先の障害＝個性論では、「障害をプラスの特徴」と位置づけていた。障害というマイナスを、（障害を単なる個人的特徴のひとつと扱うことによって）ゼロにするか、あるいは（障害を特長と見なすことによって）プラスにｃテンカすることで、障害をもった人を一般社会に迎え入れようというのである。

　このことは、障害＝個性論者が、ｄヒハンしている人々と共通の前提に立っていることを示してはいないだろうか。つまり、ある人が一般社会で平等に扱われ、対等に社会参加するためには、「他の人と変わらない（人並み）」という一種の資格が必要だという前提である。旧来の障害観は、本人に努力してもらうことで、その資格を実際に与えようとし、障害＝個性論は、「［　　③　　］を変えて」、その資格をすでにもっていると見なそうとするのである。

　私が問いたいのは、そうした考えは、社会環境の方が個人に合わせるべきだというノーマライゼーションの理念とかえって矛盾しないだろうか、ということである。④障害が障害のままでは、人は一般社会に参加できないのだろうか。もちろん、特別支援教育やｅフクシは、「〜ができない」としてえるのではなく、「何ができるのか」「何をできる可能性があるのか」に着目すべきである。だが、ノーマライゼーションを実現するのに、障害に価値を与え、⑤障害をもった人の正当化を行う必要があるのだろうか。

　人は人並みか、人並み以上でなければ社会参加できない。これが障害＝個性論にひそかに含まれている前提である。障害＝個性論は、障害をもった人はひとりの個人として尊厳をもって扱われるべきこと、一般社会に平等に参加する権利をもつことを主張している。しかし、その⑥「個」の価値を端的に打ち出すことができずに、「個であるには社会にとって有用な特長を有する必要がある」と全体論的発想に逆戻りして、「障害は個性である」と主張するにいたったのではないだろうか。障害を否定的に捉えようと肯定的に捉えようと、そんなこととは無関係にであれ個人はひとりの尊重されるべき個人である。そして障害とは個性ではなく、社会が支援する義務を負う状態のことである。

●語注

ノーマライゼーション＝障害者などが地域で普通の生活を営むことを当然とする、フクシの基本的考え方。また、それに基づく運動や施策。

特別支援教育＝日本の障害児教育の新しい呼称。発達支援教育、特別発達支援教育という言い方もする。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　傍線部①と同一内容の表現を本文中から二〇字〜二五字で抜き出せ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問２　傍線部②「この」が指しているものを二〇字以内で答えよ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　空欄③に入る最も適当な語句を本文中から漢字三字で抜き出せ。7点

〔　　　　　　〕

問４　傍線部④について、「障害が障害のままで」「人は一般社会に参加でき」ると筆者が考えるのは、「障害」というものをどのように考えているからか。三〇字以内で答えよ。10点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部⑤「障害をもった人の正当化を行う」の説明として最も適当なものを次から選べ。7点

ア　障害をもった人の平等な社会参加を積極的にウナガすこと。

イ　障害をもった人を一般社会に迎え入れようとすること。

ウ　障害をもった人に社会環境の方を合わせていくこと。

エ　障害をもった人を人並みか、人並み以上と見なすこと。

オ　障害をもった人を個人として尊重しようとすること。

〔　　　〕

問６　傍線部⑥「『個』の価値を端的に打ち出す」とはどういうことか。本文中の語句を用いて四五字以内で説明せよ。12点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

漢字　ａ付与　ｂ促（す）　ｃ転化　ｄ批判　ｅ福祉

問１　それまで負とされてきた障害を肯定的に評価する（22字）

問２　ノーマライゼーションを後押ししようとする（20字）

問３　障害観

問４　障害とは社会が支援する義務を負う状態のことと考えているから。（30字）

問５　エ

問６　障害の捉え方とは無関係に、誰であれ個人はひとりの尊重されるべき個人であると主張すること。（44字）

■覚えておきたい語句

□6　付与……………………授けあたえること。

□6　概念……………………物事の概括的な意味内容。

□14　旧来……………………昔から。以前から。

□24　端的……………………はっきりしているさま。

□25　全体論…………………全体は部分の総和としては認識できず、全体それ自体としての原理的考察が必要であるとする考え方。

〔要　約〕

　柱の段落である［5］段落を核とする。

それに、障害＝個性論（［1］・［3］段落を［2］段落に集約）との対比によって、要約する。

　　　　↓

障害＝個性論は、障害をもった人の平等な社会参加を促すために障害を肯定的に評価した。だが、誰であれ個人はひとりの尊重されるべき個人であり、障害は社会が支援する義務を負う状態であるから、その必要はない。（99字）

〈筆者＆出典〉河野哲也（こうの・てつや）一九六三年（昭和38）東京都生まれ。哲学者。立教大学文学部教授。専門は、心の哲学、現象学、倫理学、応用倫理学。主な著作に、『エコロジカルな心の哲学』『環境に広がる哲学』『道徳を問いなおす︱リベラリズムと教育のゆくえ』など。本文は、『〈心〉はからだの外にある―「エコロジカルな私」の哲学』（ＮＨＫブックス、二〇〇六年）より。

【読みのセオリー】

★指示語は後ろがヒントで前に答えがある

　指示語が指している内容は次の手順で探す。

①指示語の後に、どのような語句・表現があるかを確認する。

②それらの語句・表現と整合性を持つ内容を、指示語の前から探す。

③探した内容を指示語に当てはめて、文意が通るか確認する。

■読みのセオリー［実践］指示語は後ろがヒントで前に答えがある

問２

①傍線部②の直後の語句を確認する。

②この［１　　　　］が表れている。この意図に関して反対すべきものは、もちろんない。

＊意図…意向・意志・考え。

②その語句と整合性を持つ内容を、指示語の前から探す。

筆者は、どのような意図（考え）に対し、反対すべきものはないと述べているのか？

　　　↓ 指示語の前から探す

［２　　　　　　　　　　　　　　　意図（考え）］

③２を傍線部②にあてはめる。

〔解答〕　１意図　２ノーマライゼーションを後押ししようとする

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊新問

問７　12行目「共通の前提」とは何と何に「共通」する「前提」のことか、「障害＝個性」という語句を用いないで簡潔に答えよ。

　　［答］「障害を肯定的に捉える人」と「障害を否定的に捉える人」

＊新問

問８　空欄ア〜ウに入る言葉として最も適当なものを、次から選べ。（ア６行目「つまり」・イ20行目「だが」・ウ27行目「そして」を空欄）

　　　１　そして　　２　なぜなら　３　だが　４　つまり　５　ゆえに

　［答］　ア＝４　イ＝３　ウ＝１